

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/08/19 ～2019/09/28 )

### 1. 勉学の状況

8月19日から派遣先のタンペレ大学の Welcome Week が始まりました。期間は1週間でその間に、大学生活に必要なものの登録や授業の登録の仕方、フィンランドの生活についてのオリエンテーションが行われました。希望者に向けて大学内の Campus Tour も行われ、留学生たちが大学に慣れる手助けがなされているなど感じました。

授業は大学のホームページを確認しながら、オンライン上で期間内に自分で登録を行います。使用しているアプリケーションは違いますが、オンラインで期間内に登録をするところは千葉大学に似ていると思います。ただ、単位についてのシステムが異なり、1授業5単位が基本的ですが、1年間で60単位取得することが基本的らしく、単純計算で12授業を1年間でとればいいのかと思い、日本での授業数と比べて少ないなと思ってしまいました。しかし、5単位数もらうために必要な勉強時間数は講義や自習を含めて135時間と聞いてびっくり。日本と同じ感覚で授業をとらないように注意しなければいけません。このような状況を踏まえ、前期は4つの授業を履修しようと考えています。以下はすでに始まっている3つの授業です。

#### ・ Practical Observation of Finnish School System for Incoming Exchange Students, Lectures,

この授業はタンペレ大学に留学したら必ず履修したいと思っていた授業の1つで、実際にフィンランドの小学校や中学校、高校に行き、授業を観察することができるという授業です。本格的な観察は10月から始まり、小学校、中学校、高校の各学校1週間ずつ、見学できることになっています。また、この授業とは別に幼稚園や保育園といった教育現場も見学できる授業もあり、行きたい校種によって授業を選択することになります。

#### ・ Finnish Survival Course

この授業は、フィンランド語の基礎中の基礎のクラスです。フィンランドの挨拶や、自己紹介の仕方、アルファベットの発音、数字など基本的なことを学んでいます。先生がとてもエネルギーで面白い人で、楽しくフィンランド語の授業を受けています。この授業は日本の小学校や中学校における英語の授業と少し似ているなど個人的に思います。言語の授業なので当たり前だと思うかもしれませんが、歌やゲームを用いて反復練習や聞き取りを行う点は共通するもので、自分が将来、人に言語を教える上でのヒントになるのではないか、使えそうなものはないかと考えながら授業を受けています。



↑フィンランド語の授業風景

#### ・ Education, Schooling and Society

この授業は、留学先でホームページを見ていて、履修することを決めた授業です。社会学の視点から教育を考えていく授業で、教育社会学というものです。シラバスには先生の講義となっているのですが、実際は講義の合間に Discussion の時間が設けられており、基本的にその Discussion が授業の大半を占めます。授業を受けている人の出身地はアメリカやイギリス、ドイツ、台湾など多様な国で、私のような学生

や教師経験がある人、子供・孫がいる人と様々なバックグラウンドを持つ人たちです。その分、Discussionの内容が多角的で本当に面白いです。ただ、私の場合、議論されている内容を理解し、自分の意見としてアウトプットするまでに時間を要するので、しばしば議論を聞くだけになってしまうということが残念ではありません。英語の処理速度を上げることが私の今後の課題となっています。また、基本的に1週間に1つ、教科書のチャプターが宿題として出され、そのチャプターを読んでくることが求められます。理解しながら英語の文献を読むという行為は、なかなかスムーズにいかず1週間の中でこの授業の予習にいつも時間を割かれています。

これらの授業の他に、10月中旬から始まる、英語のコミュニケーションの授業を履修しようと考えています。現地にきて自分のSpeaking力をもっと伸ばしたい、と思ったのとフィンランドにおいては英語をどのように教えているのだろうかという興味を持ったためです。

## 2. 生活の状況

タンペレ大学は留学生に限らず、全ての学生にチューター制度を取り入れており、授業や生活についてのアシストをしてくれます。私も、タンペレに到着する前に、タンペレ大学でのチューターさんと連絡を取り合っていたので、住居までの行き方や現地での生活に必要な生活雑貨の購入などを手助けしてもらいました。他にも、一緒にご飯をつくったり、出かけたりと生活のサポートをしてくれます。

現地の交通手段は、基本的にバスで、バスカードを購入し、定期的ようにして使っています。私の住んでいるところは、大学からバスで約10分強のところであり、毎日バス通学をしています。バスは基本的には定刻に来るのですが、時々早かったり、遅かったりするので、そのバス停にバスがつく3分前にはバス停にいるようにしています。ただ、平日は10分に1本は来るので、交通の便はよいです。(反対に、休日は1時間に2、3本なので大変です。)

住んでいるところは、4人のシェアアパートです。キッチンとバスルームが共有で、冷蔵庫は各自あり、キッチンの食器やカトラリーも各自のものを使用しています。鍵がかかる自分の部屋があり、ベッドと勉強机、椅子、クローゼットが備え付けられていました。私は留学中、「せっかくの機会だし、いろいろな人と関わりたい。でも自分の時間も欲しい。」と思い、現在のアパートに決めました。アパートによって人数が違ったり、キッチンだけが共有だったり形態が様々なので自分に合ったスタイルのアパートを探すことが大切だなと感じています。ルームメイトたちは、私を含め皆違う学部に所属しているので、活動時間が様々なのですが、一緒にご飯をつくったり、出かけたりしています。

現地では、基本的に英語で十分に生活できます。どんなお店に入っても、店員さんは英語を話せるので英語が通じなくて困るといった経験をしたことがありません。ただ、スーパーの商品名が基本的に公用語のフィンランド語かスウェーデン語なので、何か新しいものを買うときには基本的に調べてから買うということを徹底しています。食事については、大抵のものが日本と変わらずに手に入ります。醤油や豆腐、酢といったものは普通のスーパーでも売っています。また大学の近くにアジアマーケットがあり、そこでお米やみりん、酒も割高ではありますが手に入ります。外食は基本的に高いのであまりせず、自炊が主です。昼食は大学内に食堂が3つあり、学生割引で、300



↑ある日の学食  
サラダ・パンは食べ放題、  
メインに肉か魚を選ぶ。

円ほどで食べられ、授業のある日は基本的に友人たちと食堂で昼食を食べています。

授業が始まって、1ヶ月、現地の生活にようやく慣れ、自分のペースを築きつつありますが、正直、大変だな、疲れたなと思うことは多々あります。しかし、それ以上に学びがあり、刺激があり充実した留学生活を送ることができているなど感じています。留学中は自分らしく、生活できたらいいなと思っています。



↑大学の図書館↑  
24時間開いていて、大学の学生なら24時間利用可能。  
自習スペースもしっかり確保されていて、日中は多くの  
学生が利用している。

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/12/01 ～2020/01/02 )

### 1. 勉学の状況

日本の大学とは異なり、フィンランドの多くの大学は8月から12月までの秋学期と1月から5月までの春学期に分けられます。私が留学しているタンペレ大学も12月で半期が終了しました。以下に秋学期に履修していた授業の中で印象に残っている2つの授業を書き出します。

#### ・ Practical Observation of Finnish School System for Incoming Exchange Students, Lectures

10月後半から11月の前半にかけて大学付属の小学校、中学校、高校、合わせて18時間の授業を見学することができました。授業内容や使用している教材、教授法だけではなく、授業環境や学校設備など自分が思っていた教育現場の「当たり前」を考え直すいい機会になったと思います。特に私が印象に残っている授業は、小学校の宗教の授業です。まず、日本になじみのない教科ではあるのですが、印象に残っているのはその授業方法にあります。その授業では、次の回に予定されているテスト勉強として、生徒自身にテスト問題を考えさせるという活動を取り入れていました。生徒は2,3人のグループを作り、数問のテスト問題を1時間の授業の中で作り、最後に自作の問題をクラス全体で回答します。テスト勉強として自身でテストを作るという発想に衝撃を受けました。また、この授業の最後の回は、授業見学を行った大学生が集まって、見学を通じて自分が感じたことを議論しあうというものでした。議論を通して、自分がフィンランド特有だと感じていたことが実は違っていたり、逆に日本が特有であるのだと分かったりしました。この授業を履修している学生の多くが自国の大学でも教育を専攻している学生であるため、自分とは異なった視点からフィンランドの教育や自国の教育について考えるよいきっかけになったと感じます。

#### ・ Finnish Survival Course

この授業では、フィンランド語の挨拶や数字、ものや色の単語、時計の読み方などを学習しました。8月から週1回この授業を受けていましたが、生活の中で聞き取ることのできるフィンランド語が増え、授業の成果を感じています。8月、スマホの翻訳機能片手に買い物をしていた私ですが、スーパー内にある看板の文字(フィンランド語)を見ながら、食品を探したり、食品の文字を見ながら値段を確認したりできることが多くなりました。英語だけでも十分に暮らしていけるフィンランドではあるのですが、現地での生活を楽しむことも長期留学の醍醐味だと思うので、これからもフィンランド語の勉強を続けていきたいと思っています。

### 2. 生活の状況

12月中旬からクリスマス前にかけて、ラップランド地方へ旅行に行きました。大学の学生団体が提携を組んでいるツアー会社のツアーに参加しました。旅行中はコテージに泊まり、ツアーの活動がない時間は友人たちとサウナに入ったり、料理をつくったりしていました。友人たちの多くが12月で留学を終え自国に帰る予定であったので、帰国前にすばらしい思い出をつくることができました。また幸運なことに人生初の



↑ 宿泊したコテージから見えたオーロラ

オーロラを見ることができました。旅行したラップランド地方はオーロラが見やすい土地だったのですが、曇りの日が続いていたため、オーロラは見られない可能性が高いとガイドさんが言っていたので、見られた時の感動は人一倍でした。フィンランドに来たからには絶対一度は見たいと思っていたので、オーロラを見ることができて本当に良かったです。

クリスマス期間中は友人たちとクリスマスマーケットに何度も出かけました。11月後半から始まりなぜかクリスマス当日になる前に終わってしまうのですが、見ていっただけで楽しく期間中に友人たちと遊ぶ際は必ず立ち寄っていました。クリスマス当日は現地の留学生の友人と日本人の友人たちとで過ごしました。フィンランドのクリスマスは日本の正月に似ています。23日からお店の営業時間や公共交通機関の運営が短縮され、25日はほとんどの店が閉まってしまう。タンペレの主な移動手段であるバスもこの日はお昼から夕方までしか運営されておらず、クリスマス当日は家でパーティーをしました。



↑タンペレのクリスマスマーケット入り口

また、大晦日は現地で暮らしている日本人の友人と日本文化に興味がある外国人の友人たちと年越しそばを食べた後に、その友人たちと花火を見に行きました。フィンランドの年越しは花火をすることが一般的だそうで、個人で打ち上げ花火を購入できるそうです。見に行った花火は、タンペレが主催するもので規模が大きいのだったのですが、行く途中でいくつもの打ち上げ花火をみて最初は花火大会がいろいろなところで催されているのかと勘違いしてしまいました。フィンランドでは1年の中でこの日だけが個人で花火を打ち上げられることが許可されているらしく、大晦日の夜から元旦の未明にかけて花火の音がずっとなっていました。私のアパートの前の駐車場でも花火をしている人がいてきれいだったのですが、打ち上げ花火を個人がすることになれていなかったの少しひやひやしながら部屋から見ていました。



日本と違ったフィンランドのクリスマスと正月を体験でき、充実した冬休みを過ごせたと思います。残り半分となった留学生活も有意義にすごしていきたいです。



↑友人たちと作ったフィンランドのクリスマス定番の joulutorttu(左)とアイシングジンジャークッキー (右) ↑

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/04/01 ～2020/05/31 )

### 1. 勉学の状況

1月から始まった春学期で印象に残っている2つの授業を紹介します。

#### ・ Language, Communication and Culture

留学前からぜひ受講したいと思っていた授業の1つで、異文化理解について学ぶ授業でした。授業は文化や言語の概念、異文化コミュニケーションについて学ぶものでした。授業はグループでの Discussion 中心で進行します。各回教科書の1つのチャプターについて取り扱います。1回ごとにグループの中で代表を決め、その人がその回の要約と Discussion Questions を用意します。授業では Globalization や国際恋愛、国際ビジネス、教育の異文化理解などのトピックを扱いました。多くの留学生が参加しているので、フィンランドの国のことはもちろん、アメリカやアジア、他のヨーロッパの国々の事情などを知ることができました。担当して下さった先生はイギリスの方で、フィンランドに来る前に日本を含めていろいろな国の滞在経験をお持ちの方だったので、先生の体験や経験の話なども面白く、視野が広げられた授業だと思います。また、この授業の最後は、コースの中で扱ったテーマを1つ選び、プチ研究するというものでした。私は、地元の教育現場での外国にルーツを持つ子供たちの支援についての研究を行いました。実際に調査してみることで、身近で過去に自信が体験していた教育についてもかかわらず、知らなかったことが多くあり、教育について違った側面から考えるいいきっかけになったと思います。

#### ・ Finnish Society and Culture

フィンランドに関する政治や歴史、環境、教育などを学ぶ授業でした。1回1回ごとにテーマと教師が異なり、その分野の専門家の方が講義してくださいました。トピックは、フィンランドの歴史や政治形態、女性の社会進出状況、教育、音楽、マスメディア、産業など様々でした。歴史や政治形態、教育についてなどは事前に知っていたものや秋学期を通して知ったものを含んでいましたが、音楽やマスメディア、産業などは初耳のことがほとんどで、フィンランドについて理解を深めることにつながったと思います。この授業の最終評価は、ムードル上でのテストでした。授業開始当初からムードル上でのテストであると決まっており、ムードル上で選択問題や記述問題を解き、時間内に回答を送信するというものでした。

この他にも、秋学期から引き続きフィンランド語の授業とタンペレ大学の教育学部の授業を履修していました。

### 2. 生活の状況

今年の冬は暖冬で、雪はそこまで降りませんでした。現地の友人たちは、今年は数十年ぶりに温かいと言っており、マイナス20度の冬を想像していた私としては少し拍子抜けしてしまいました。それでもマイナスの日がほとんどで、アパートにあるサウナを週1回予約して、2時間1人でサウナを貸し切りリラックスすることが習慣化していました。図書



↑エストニア・タリンのパレードの列

館の利用も秋学期に比べると増え、授業を受けて学食で友人とランチを食べ、図書館で自習するというのが平日のルーティーンでした。1月を過ぎてからは日照時間も増え、友人と授業の合間に大学の周辺を散歩することもありました。太陽が出ている日は、友人たちと一緒に喜んで、日本では味わえなかった太陽の有難さをしっかりかみしめていました。友人とムーミンワールドにも行くことができました。もともとムーミンワールドは夏季しか営業しておらず、諦めていたのですが、冬季に1週間だけエリアの一部が開かれていることを知り、友人とチケットを予約して訪問しました。2月にあった1週間の休み(ピリオドの区切れのため)には、エストニアの首都タリンを訪れました。ちょうど訪れた日が独立記念日で、パレードを見ることができました。フィンランドの独立記念日もパレードがあったのですが、見に行けていなかったので独立記念日のパレードを見ることができてよかったです。



↑ムーミンワールドのムーミンの家

### 3. コロナウィルス感染症の影響

3月に入ってコロナウィルスの影響で、大学の入構が禁止になり、全ての授業がオンラインに移行しました。私の履修していた授業はほとんど問題なくオンラインに移行して授業を行っており、日ごろからオンライン化が進んでいたタンペレ大学だからこそ、大きな抵抗もなく移行できたのかなと思います。また、3月の後半になって急遽帰国しましたが、帰国後も日本でオンライン授業を受けることができました。ただ、せっかく知り合った友人たちとお別れする時間がとれず、悲しかったです。SNSなどでつながっていますが、やはり直接話してお別れしたかったなと思います。



↑晴れた日のタンペレの街



↑散歩中であつたムーミンの像